4. 街並みの変化

街並みの変化に着目して、特性、課題を明らかにします。

ア. 特性

(ア)開発による急激な変化

- 大規模跡地などにおける個別の開発、大規模な構造物の整備は、周辺地域の景観に大きな影響を与える可能性があります。
- 住宅地の中では建築物のボリュームや高さの違いなどによって周辺の街並みになじまないところがみられます。

(イ)ゆるやかな街並みの変化

- 目黒本町などの木造住宅が密集している地域は、その整備・改善に長い時間を要するため、徐々に街が変化しています。

(ウ)良好な街並みの保全

- 良好な住宅地は、重要な景観資源とも言えるため、今後も保全していく地域と位置づけられます。

(エ)道路、鉄道等の改修

- 道路や鉄道等の都市基盤施設は新たに整備が必要とされるものもありますが、一定程度の水準に達しており、今後は、これらの施設の改修時期を迎えることになります。

大規模な土地利用の転換(区民キャンパス)

低層住宅地(八雲)

イ. 課題

(ア) 開発による急激な変化

- 開発に伴う街並み景観の変化においては、周囲の街並み景観を踏まえるとともに周辺地域に与える影響を十分に予測し、良好な景観形成を誘導することが必要です。
- 人の目にふれやすい大規模構造物は、景観づくりの取り組みの対象として、波及効果が大きく景観施策のＰＲにもなるため積極的に取り組むことが必要です。

(イ) 良好な環境改善と併せた良好な景観形成

- 建て替えによる市街地のゆるやかな変化をとらえ、現状の生活環境を改善することと併せて、良好な景観をつくり出していくことが必要です。

(ウ) 住民の手によるより良い景観の形成

- 地区計画※や街づくりのガイドラインが定められている地域については、住民の参加のもとに景観的な検討を十分に行い、景観のルールを定めていく必要があります。

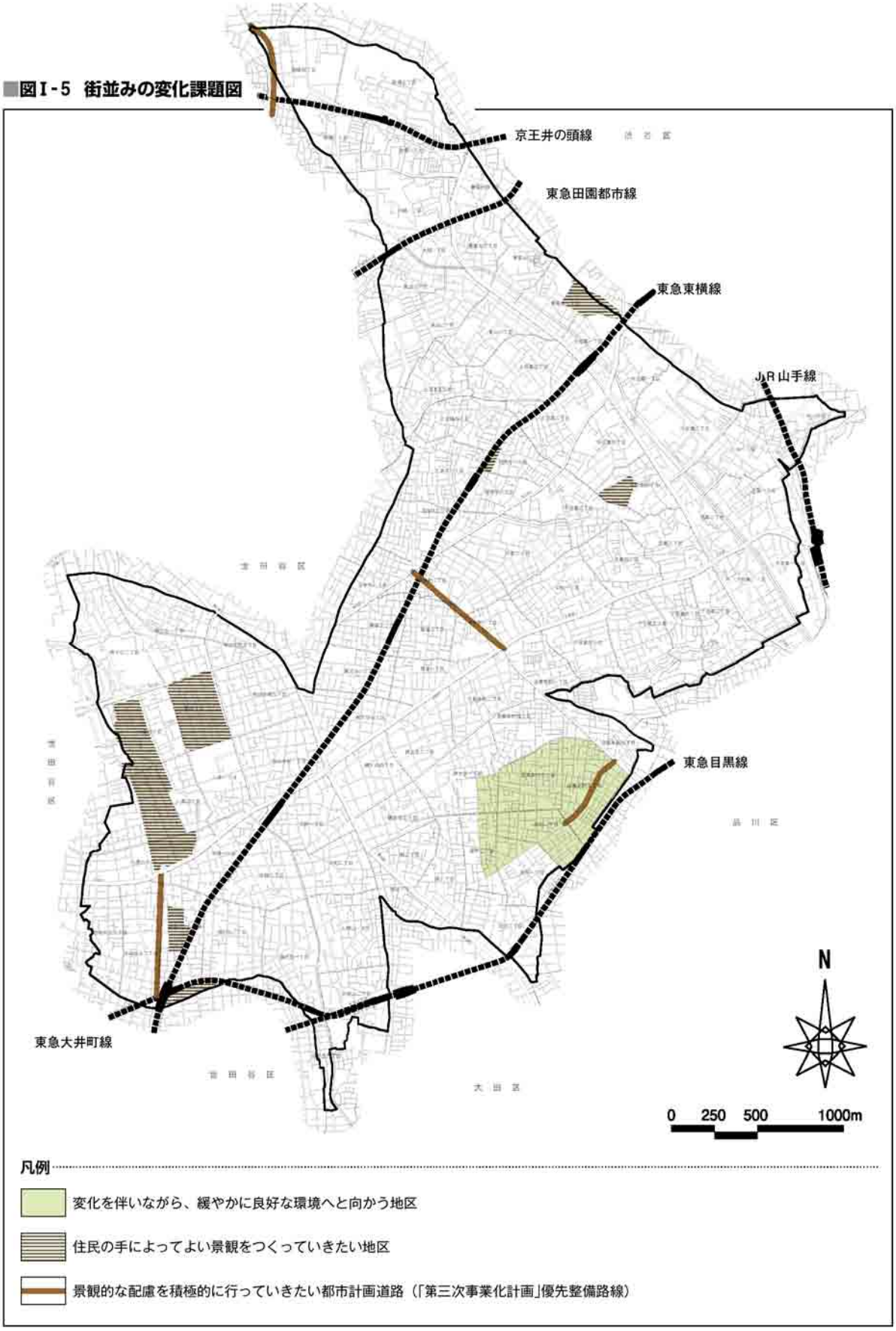
(エ) 都市計画道路及び沿道建築物の積極的な景観配慮

- 現在事業が行われている都市計画道路や、第三次事業化計画路線において優先整備路線と位置づけられている都市計画道路は、事業主体など関係機関と連携し、無電柱化などの整備を進める必要があります。
- 沿道の建築物は、道路整備の機会を捉え、良好な街並み形成に向けた景観への配慮を誘導する必要があります。

(オ) 道路、鉄道等の改修

- 道路、鉄道等の改修などにあたって、景観的な視点を取り入れていく必要があります。

■図Ⅰ-5 街並みの変化課題図



5.「特性と課題の抽出」のまとめ

(1) 自然

ア. 地形

目黒区は、高低差は大きくありませんが、緩急に富んだ地形が特色となっています。そのため、景観形成においても、地形に沿った建築など地形を活かすことが求められています。

イ. みどり

樹木といった点的なみどり、緑道のような線的なみどり、公園などのまとまった面的なみどりとあるいは敷地内のみどりがまとまって面的なみどりをつくり出している住宅地など多様なみどりがあります。

これらのみどりを保全し、新たに創出することにより、みどりのつながりや面的な広がりを更に生み出していくことが求められています。

(2) 歴史

目黒区には、街道、坂道、寺社、庚申塔等さまざまな歴史的資源があり、目黒区の歴史を感じさせています。これらの歴史的資源を活用しながら、良好な景観を形成することが求められています。

(3) 生活空間

ア. 街区

地形や面整備の有無などにより、区内の市街地の街区形状には、差異があり、市街地の景観も異なっています。

街区形状の差異に着目して、市街地の景観形成を図っていくことが求められています。

イ. 道路

幹線道路沿道のほか、生活道路沿道の景観整備も重要と考えられます。道路毎の特性や沿道の資源を踏まえた沿道景観の形成が求められます。

ウ. 近隣空間

近隣の商店街の個性的な景観形成、身近な公共・公益事業施設の修景や景観整備、駅周辺の総合的な景観形成、住宅地の中の駐車場の修景が求められています。

また、景観を形成する要素としてストリートファニチャー等の使いやすさ、美しさの向上などが求められています。

(4) 街並みの変化

近年目黒区においては、開発や建替え、道路等の公共施設の整備が進み、街並みが変化しています。また将来的にもこの傾向は続くと考えられます。そのため、これらの動きを捉えて、良好な景観形成を誘導することが求められています。